

<今後のハード整備・ソフト対策について>

①ハード整備

当面の整備目標の超過外力に対して、ハード整備（公助）で全てを対応していくことには限界がある。

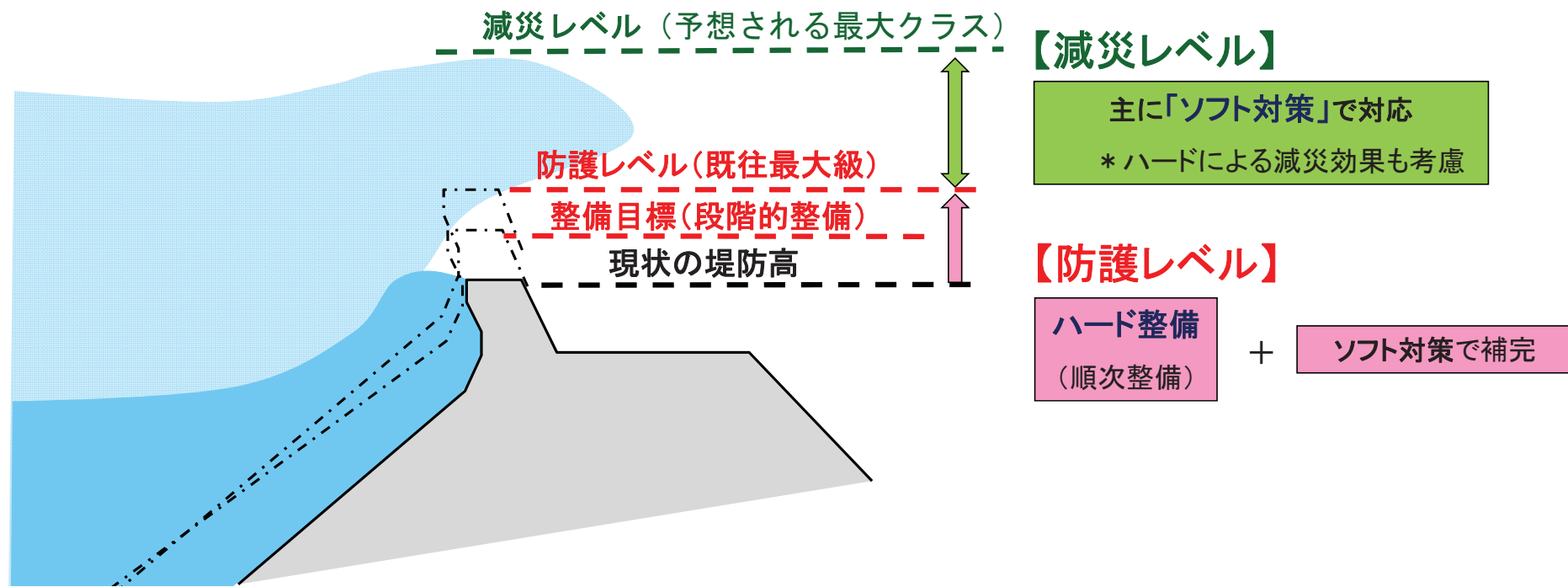
（予算的・時間的・地元との合意形成 など）

⇒ 地域の特性に応じた段階的整備により、継続的に機能強化を図る

②ソフト対策

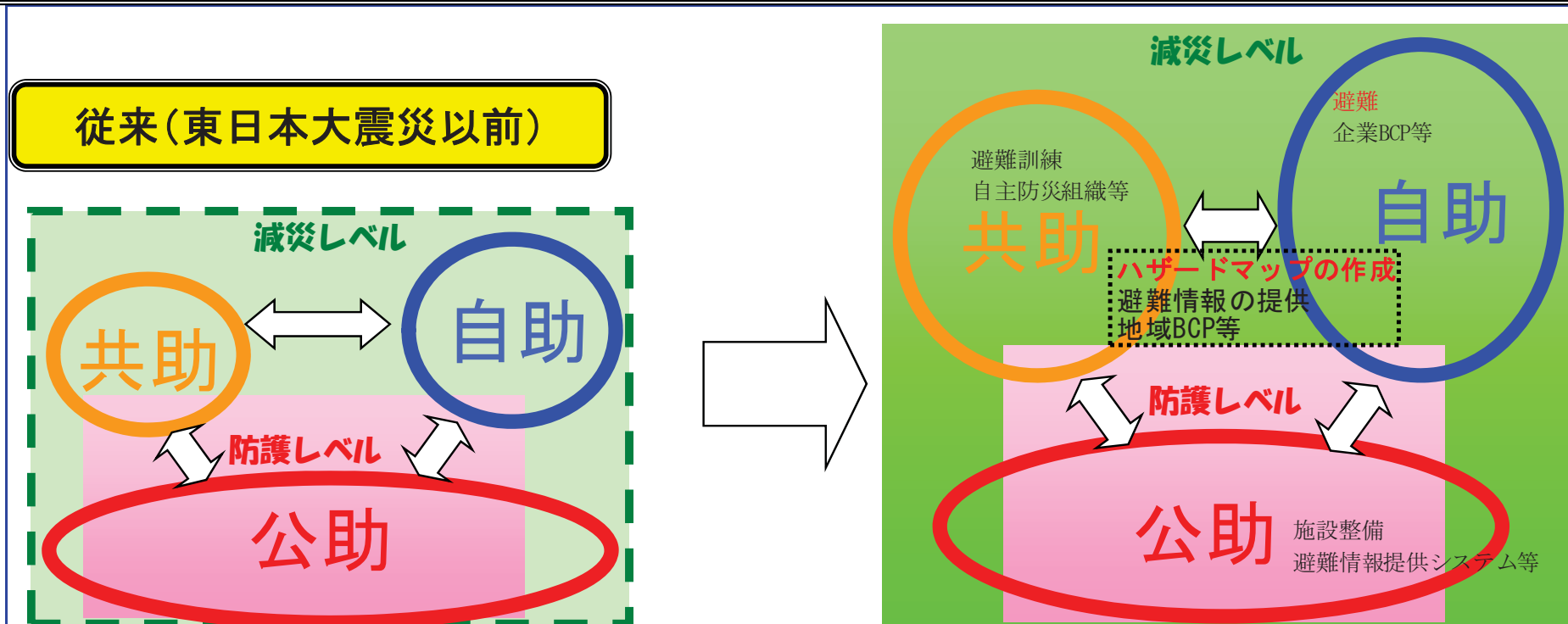
従来の防護レベルでのハード整備を補完するソフト対策に加え、東日本大震災以降は超過外力（減災レベル）への対応が課題となっている。

⇒ 減災レベルへの対応を含めた「ソフト対策」の更なる充実
（* 「自助」「共助」を支援する施策を実施）



超過外力（減災レベル）に対応するため、

「多様な主体の連携」のもとで「危機管理体制を構築」することにより、「被害をできる限り軽減すること」を目指す。



「減災レベル」の災害に対応していくためには

「自助」「共助」「公助」をバランスよく向上させることが重要

⇒ 「自助」「共助」を促す「公助」のソフト対策の推進

<総合的な防災対策（案）>

* 海岸管理者に関連するもの

①被害抑止（海岸保全施設の機能確保と性能アップ）

- 海岸保全施設の機能向上
 - ・ 高潮対策と耐震対策の着実な実施
 - ・ 水門・陸閘門の自動・電動化の推進
- 海岸保全施設の適切かつ効率的な維持管理（アセットマネジメント）
 - ・ 継続的な機能点検の実施と老朽化対策

主にハード整備

②被害軽減（超過外力への対応）

- 津波・高潮に対する基礎知識や現況の防護水準に関する情報の発信
 - ・ 地形情報の提供、高潮浸水予測図の作成・提供（* 本検討会において実施）
 - ・ 市町村が作成するハザードマップの作成支援（* 県防災局と連携）
 - ・ 企業BCP・地域BCP・港湾BCPとの連携・情報共有
- 防災訓練、水防活動支援
- 海岸保全施設の粘り強い構造への対応

主にソフト対策

③災害情報（水防団の活動支援、迅速な避難対策）

- 避難判断情報（水防活動情報）の積極的な情報発信
 - ・ PUSH型の情報提供
（地域メールや情報掲示板等による情報発信）
 - ・ PULL型の情報提供
リアルタイム情報の提供（CCDカメラによる画像、潮位情報、GPS波浪計情報 等）

主にソフト対策